

## 5 福島県学校保健協会

### (1) 役 員

役職名	氏名	所属
会長	太田秀夫	福島県医師会会長
副会長	鈴木健一	" 小学校長会長
"	館光雄	" 中学校長会長
"	飯島護	" 高等学校長協会会長
理事長	古内俊直	" 教育庁保健体育課長
常務理事	陸勤	" 保健体育課主幹
"	戸田修	" 保健体育課長補佐
理事	星正	県北地区小・中学校代表
"	不破敬也	県中地区 "
"	菊池玄	県南地区 "
"	小沼隆	会津地区 "
"	湯田武夫	南会津地区 "
"	大石芳彦	相双地区 "
"	荒川清	いわき地区 "
"	佐藤謹	福島県高等学校教育研究会保健部会代表
"	猪狩秀雄	"
"	太田友也	県北教育事務所指導主事
"	尾形茂夫	学校医部会長
"	木村徳衛	学校歯科医部会長
"	野崎善雄	学校薬剤師部会長
"	鈴木恒男	保健主事部会長
"	上枝治代	養護教員部会長
監事	竹内健	県北地区小学校長
"	黒須撰三	" 中学校長
"	星光正	県中地区小学校長
幹事	掘金良臣	福島県教育庁保健体育課保健係長

### (2) 事務局

福島県教育庁保健体育課内

事務局職員 茂木知江子

### (3) 会員

- ① 県内小・中学校及び高等学校の児童・生徒
- ② 学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

### (4) 財政

昭和58年度決算額 3,652,170円

### (5) 事業の概要

- ① 学校保健講習会の開催
- ② 各種研究大会、講習会への参加
- ③ 刊行物の発行
  - ア 健康手帳、小学校12,644部 高等学校2,964部
  - イ 安全読本、小学校39,618部 中学校 21,118部
  - ウ 会報
  - エ 学校保健・学校安全の手びき
- ④ 学校保健・学校安全に関する研究調査
- ⑤ 学校保健功労者等の表彰

## 第5節 学 校 健 康 会

### 1 加 入 状 況

昭和58年度の加入児童・生徒等の数は435,173人で学校種別の加入状況は、表1のとおりである。前年度に比べ、義務教育において847人増加し、非義務教育において1,178人減少し、総数で331人減少した。加入率は、私立幼稚園・保育所

に若干の未加入があるが、小・中・高等学校及び公立幼稚園・保育所はすべて加入しており、児童・生徒等も長欠者等特殊事情のある者を除き、全員加入した。

なお、学校等設置者損害賠償免責特約についても、健康会に加入している全設置者が、この特約をつけた。

### 2 共済掛金の額

#### (1) 災害共済給付に係る共済掛金

児童1人当たりの共済掛金の額は、表2のとおりで、設置者と保護者とが分担する。

#### (2) 学校設置者損害賠償免責特約に係る共済掛金

表3のとおりで、全額設置者が負担する。

#### (3) 昭和58年度の共済掛金収入額

表4のとおりである。

### 3 災害共済給付の状況

#### (1) 給付件数及び給付金額

昭和58年度の給付件数は17,949件で、給付金額は、213,584,407円である。給付別には負傷・疾病17,914件、障害31件、死亡4件で、負傷・疾病が全体の99.8%を占める。学校種別にみると、給付率(給付件数÷加入児童・生徒等数×100)では、高等専門学校が8.66%で最も高率であり、次いで中学校の7.19%、高等学校全日制の4.53%、小学校の3.42%の順に低くなり、幼稚園・保育所は更に低率である。(表5)

年次的推移をみると、給付件数においては、増え続けてきた件数が、昭和52年度を頂点として、以後横ばい状態にあったが、昭和56年度から再び増加を示す傾向が現われている。給付金額は、障害・死亡の増減によって変動あるが、医療給付額は、毎年増加しており、医療の普及充実等によるものかと考えられる。(表6)

#### (2) 災害発生の場合

学校種別ごとに特徴がみられ、小学校の場合は、半数以上が休憩時間中に発生しており、中学校・高等学校では、課外指導と教科中の災害が過半数を占める。(表9)この傾向は、毎年度同様であるが、数年前と比べると、授業時間中の災害が減少し、休憩時間中の災害が増加している。

#### (3) 災害発生の場所

小学校では、運動場の災害が最も多く、次いで教室や屋外運動場での災害が多いが、中学校・高等学校では、校舎内の災害が多い。しかし、全体でみると屋内運動場や屋外運動場での災害が半数以上を占めている。なお、学校外の災害は全般に少ないが、高等学校でやや多いのは、競技会など学校外の施設での運動をする機会が多いことを示している。(表10)

#### (4) 災害の種類

災害の98%強を占める負傷についてみると、骨折、ねんざ、ぎ傷、打撲傷が多い。また、年令が低いほど、骨折、ぎ傷が多く、高学年になるとねんざが多くなる。疾病は、日・熱射病、関節炎、皮膚炎等であるが、各学校等を通じ少數である。(表11)

#### (5) 負傷の部位

小学校・中学校においては、負傷の約70%が上肢あるいは下肢に発生しているのに対し、幼稚園・保育所では、負傷の約57%が頭部・顔面部に発生している。(表12)